



成果報告の様子

公立鳥取環境大学でPOTEKAを利用した研究成果が発表されました

5月8日、公立鳥取環境大学において平成30年度研究成果報告会が行われました。この中で重田祥範准教授から「気象情報のWeb公開と防災アラート速報の配信－防災気象観測システムの構築－」と題し、当社の超高密度気象観測・情報提供サービスPOTEKAを利用した研究報告がありました。

本報告は、株式会社テクノシステム様が中国地域産学官連携コンソーシアムを活用して、公立鳥取環境大学にPOTEKAを納入して実施した共同研究の成果報告です。その報告において、鳥取市内およびその周辺地域から得られたピンポイント気象情報をWebで公開・閲覧することで、気象情報への注意喚起に役立てられる利点が紹介されました。また、今後他機関が提供する河川水位情報とPOTEKAの雨量データを照合することで、雨量と水位データの関係性を明らかにしていく予定であることも報告されました。

明星電気は、気象リスクに対して地域に密着した観測体制の構築に貢献します。

(担当: 気象防災事業部、中四国支店)



展示品を説明する当社社員(中央)

第52回岩崎トータルソリューションフェア2019に出展

4月11、12日に「第52回岩崎トータルソリューションフェア2019」が札幌コンベンションセンターで開催され、気象・防災製品を出展しました。

ビジネスパートナーである株式会社岩崎様が開催した本フェアの今年のテーマは、「サステイナブルな社会インフラの実現に向けて～i-Constructionで生産性革命～」となっており、建設業界の生産性向上を提案する企業約70社が出展して、2日間で延べ2,646人のお客様が来場されました。当社展示ブースでは、超高密度気象観測・情報提供サービスPOTEKAと積雪深計オプション、緊急地震速報対応QCASTシリーズ、制御用地震計S401-PSCなどを展示し、建設現場の安全安心に役立つと好評を得ました。

明星電気は、建設現場やさまざまな場面で安全安心に貢献できる気象防災関連製品・サービスを開発していきます。

(担当: 気象防災事業部、北海道支店)



明星展示ブース

日本気象学会2019年度春季大会に出展

5月15日から18日の4日間、日本気象学会2019年度春季大会が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、展示ブースにてGPSラジオゾンデiMS-100と特殊ゾンデを紹介しました。

台風の熱力学的構造や風向風速を解明するために開発されたドロップゾンデiMDS-17は、近年、大型台風が頻繁に発生していることから、台風のメカニズムを解析している研究者の方々から注目を集めました。この他に、新たに開発した気候監視に役立つ高精度水蒸気測定ゾンデSKYDEWや上空の雲の密度や種類を直接観測できるCPSゾンデを展示しました。

明星電気は、これからも特殊ゾンデの開発を通して気象研究の発展に貢献していきます。

(担当: 気象防災事業部)

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。